

子育て通信(冬季号)

子どもに向かい合い続ける保護者を応援します。 平成30年1月



発行: 墨田区教育委員会(地域教育支援課)
〒130-8640 墨田区吾妻橋一丁目23番20号

【子育て通信】は季刊です。裏面にコラムがあります。

子育て通信アンケート結果をお知らせします

区のWEBサイト上で、子育て通信に関するアンケートを実施しました。実施期間は10月31日から12月31日までです。全部で10件の回答をいただきました。アンケート結果は下表のとおりとなりました。

子育て通信を読んでいる頻度では、「毎号読んでいる」が6割、「今回初めて読んだ」が4割となっており、一定数の固定読者がいることがわかりました。また、特集してほしい記事については、「子育て、家庭教育支援制度の紹介」が5割と区の制度について知りたいというニーズが強いことがわかりました。子育てについて悩んでいることについては、回答が分散しており、それぞれの家庭で多様な悩みがあることがわかりました。

今回のアンケート結果は子育て通信の紙面の充実に活用させていただきます。アンケートにご協力いただいた方、ありがとうございました。

1 「子育て通信」をどのくらいの頻度で読んでいますか？	回答数
毎号読んでいる	6
年に2~3回	0
年に1回	0
今回初めて読んだ	4

2 紙面をどの程度読んでいますか？	回答数
隅々まで読む	5
半分程度読む	1
興味のある記事だけ読む	3
ほとんど読んでいない	1

3 「子育て通信」で特集してほしい記事は？	回答数
墨田区での子育て、家庭教育支援制度の紹介	5
子どもの発達や生活リズム、食育等の子育てに関する情報	2
墨田区内での家庭教育子育て支援の講座イベントのお知らせ	2
その他	1
特になし	0

4 子育てについて悩んでいることは	回答数
発育や発達に関すること	2
食事や栄養に関すること	0
子どものほめ方、しかり方に関すること	3
子どもの教育に関すること	2
友達づきあいに関すること	2
その他	1
特になし	0

【問合せ】 墨田区教育委員会事務局地域教育支援課 電話 5608-1433

墨田区はパパも **大いに** 応援しています！！

日々成長していく子どもと、しっかり関わることで親も成長します。この機会を逃してしまうのはもったいない、でもどのように接して良いかわからない。そんな新米パパを対象とした講座等を様々な施設で行っています。

▼ 「パパのための出産準備クラス」

向島・本所保健センターで実施、出産を迎える初妊婦とパートナーが対象です

▼ 「すみだパパスクール」

すみだ女性センターで年1回実施、パパならではの子どもとの遊び方などを体験します

▼ その他、児童館・コミュニティ会館でも楽しい企画を実施しています。

パパの育児で家族を笑顔に！家族みんなの笑顔を増やすきっかけづくりに、各施設のホームページなどをご確認のうえ、どうぞご参加ください。



『子育て支援コラム』

平成29年度第4回テーマ
人の話を聞ける子どもに～昔話の読み聞かせ～

▼楽しかった冬休みが終わり、お子さんたちは園や学校で年末年始のさまざまな体験を、話したり、聞いたりすることでしょう。▼お話を上手にできるお子さんは、上手な聞き手でもあることが多く、人の経験を自分の生きる糧として心に引き寄せ、楽しんで話を聞くことができます。その一方、話を聞くことが苦手なお子さんは、自分のことを話すことも苦手なように見受けられます。▼<話を聞くことが苦手＝相手に関心を寄せられない⇒耳に入らない⇒内容がわからない⇒相手に関心を寄せられない>と、苦しい循環をしているお子さんは、概して読み聞かせが楽しめないお子さんでもあるようです。▼でも、ご心配には及びません。周囲がお子さんに話しかける口調や姿勢を少しだけ意識すれば、少しずつお子さんは変わってきます。経験を重ねればよいのです。その練習にお薦めなのが、昔話の読み聞かせです。

▼昔話は先人たちの生きるための知恵やメッセージが託された「愛の贈物」と言われています。話の道筋は単純素朴で言葉にはリズム性があり、声に出して読みやすいため、聞き手である子どもにとっても聞きやすくできています。▼育ちの訪れに個人差はありますが、4・5歳くらいになると、それまで見て、聞いて、触って、かじって・・・と、五感で体験する事柄をテーマにした生活絵本から、見たことも聞いたことも触れたこともない世界の物語を楽しむことができるようになります。▼この時期を読書の発達心理学では昔話期といいますが、子どもは、言葉として耳から入る情報と、絵として目から入る情報を一致させ、知らないことや想像の世界を楽しむことができますようになります。▼読んでくれる大人が一緒だから、未知の世界へ踏み込むことの怖さや恐れはありません。安心して見知らぬ世界を楽しむのです。▼絵本の裏表紙に「読んであげるのなら4歳から。自分で読むなら小学校初級」と書かれているのをご覧になったことがありますか？これはまさに昔話期を示すものですが、昔話には、読んであげれば4歳でもわかる平明な文章でありながら、起承転結があり、最後には達成感や安心感などを得られる力があるのです。

▼絵本選びに迷ったら、長く読み継がれた絵本を図書館などで探すことも一案です。(なにしろ昔話なので、評価の定まらない新しい作品に飛びつく必要はないのです。) 図書館のカウンターで相談するのも良いでしょう。

▼昔話の読み聞かせを通じた楽しい経験の積み重ねは、人の話に心を傾け、自らの生きる糧として、言葉を心に蓄える力となることでしょう。

(JPIC 読書アドバイザー 児玉 ひろ美)

